事例No.	2263
公表年度	R4
団体の属性	町村
団体名	神奈川県葉山町

事例区分	DX

タグ	・EBPM ・新たな政策手法の確立・活用 ・ICT

事例種類	DX

事例内容・タイトル

資源ステーション美化を目的として、住民協働によるランダム化比較実験を実施

出典

地方自治研究機構：自治体D X におけるデータ利活用及びEBPMに係る調査研究（令和３年度）

＜調査研究事業：自治体 DX におけるデータ利活用及び EBPM に係る調査研究（令和３年度）＞

〇自治体 DX

・データ利活用及び EBPM

取組団体：神奈川県葉山町

取組内容：資源ステーション美化を目的として、住民協働によるランダム化比較実験を実施

１．葉山町の概要

人口：32,646 人（令和４年 10 月１日時点）

職員数：299 人（令和３年４月１日時点）

総面積：17.04 ㎢

葉山町の位置図



出所：葉山町ホームページ

２．取組の背景・目的

・何の課題を解決しようとしたか？

平成 27 年度から平成 29 年度にかけて、「葉山町きれいな資源ステーション協働プロジェクト」を実施した。当該プロジェクトは、資源ステーション美化を目的に住民協働によるランダム化比較実験を実施し、その結果を踏まえ政策を決定・実行した社会実験である。



出所：葉山町「葉山町きれいな資源ステーション協働プロジェクト」（日本評価学会社会実験分科会 2021 年研究報告会資料、以下同じ）

ごみの減量化、資源化率の向上を意図して平成 26 年度にごみの収集方法を変更したが（「ごみステーション」から「無料の戸別収集」及び「資源ステーション」への変更）、資源ステーションの不適切な利用が後を絶たず、効果的な対策を打ち出せずに困っていた。また、葉山町には葉山御用邸があり、若者が観光で訪れる街ということもあり、住民の環境美化に対する意識が高く、ごみが散乱している状況に関して住民が問題意識を持っていた。

このような状況の中、たまたま町職員がランダム化比較実験の手法を知り、年度の途中ではあるが、町内（自治）会支援事業を担当している政策課とごみ施策を担当している環境課において１か月程度の間にフレームを検討し、プロジェクトをスタートさせた。

３．取組の内容

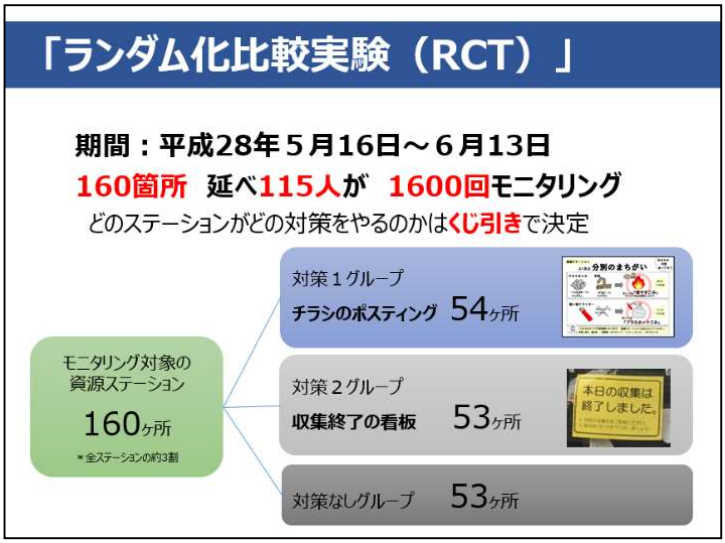
・ランダム化比較実験によるごみ対策の効果分析

どの対策がごみの取り残しを減少させるかを分析する際に、前後比較などの分析手法では住民が納得しないのではないかと考え、どの対策がより効果があるのかということが明確に出せるランダム化比較実験を採用・実施した。具体的には、Step１として、28 町内会中 17 町内会において住民が協力して資源ステーションのモニタリングを実施し（マンション全体で人を配置して管理できている町内会や小規模のため管理が行き届いている町内会等を除く）、取り残されたごみの傾向を数値化した。

資源ステーションモニタリングシート

	A 欄			B 欄						
日付	確認時間	記入者氏名	ごみが残っているか はい：① いいえ：②	以前に記入したごみか はい：① 一番初にチェックした日時を記入 いいえ：②	ごみ後に入っているか はい：① いいえ：②	ごみの種類 (中身を記入)	個数 (数を記入) 数えられない場合は概数でOK	戸別収集・粗大ごみか はい：① いいえ：②	分別・洗浄が出来ているか はい：① いいえ：②	メモ
5/18(水)	16:00		①	②	①	プラ容器包装	1袋	①	②	
5/20(金)	16:00		①	① 5/18						
5/21(土)	18:00		①	②	①	ダンボール 古紙類	1 1袋	②	の	
5/25(水)	16:00		①	① 5/21						
5/28(土)	15:00		①	②	①	古紙類	2袋	②	①	回収時間に間に合わなかったので？

Step２として、モニタリングの結果を踏まえて、住民が参加するワークショップを３回開催し、適切なごみ出しに向けての対策を検討した。複数考えられた対策の中から、最終的に参加者のシール投票により、①チラシのポスティングと②「収集終了」看板設置の２つの対策が選ばれた。Step３として、Step２で検討した対策の効果を検証するために、ランダム化比較実験を実施した。詳細は、下図のとおり。



データは２回取得している。１回目（事前モニタリング）では、町内約 160 ヶ所の資源ステーションにて、「どんなごみが、どのように、どれだけ残されているか」（上記「資源ステーションモニタリングシート」参照）をモニタリングし、データ化した。２回目（ランダム化比較実験）の際も、１回目と同様にモニタリングし、対策の効果を比較した。データ収集に当たり工夫した点として、モニタリングをする町内（自治）会員の負担にならないようチェックシートを簡便なものにした。

４．成果・課題

・成果

成果として、３年掛けて住民協働にてプロジェクトを実施したことにより、町内会長をはじめ地域のキーパーソンとなる人々の意識啓発を図ることができた。このことにより、各町会でも意識が高まり、結果としてごみの減量率、ごみの資源化率の向上につながっている。加えて、行政と住民が共通の目標に向かって互いに汗をかくことで、行政と住民の距離感がぐっと縮まったと感じている。

・課題

課題として、今回のプロジェクトはコンサルタントの協力もあり、費用は掛からなかったが、今後町全体で EBPM を推進していく上では、コンサルティング費用の捻出や町が自前で行う場合にデータ分析ができる職員の内製化などの課題がある。特に葉山町は財政規模がそれほど大きくはなく、EBPM 推進に当たり都度外部に委託することは困難であるため、データ分析に係る研修の実施や専門人材を採用するということが対策として考えられる。

【参考】

葉山町ホームページ（葉山町きれいな資源ステーション協働プロジェクト概要）

https://www.town.hayama.lg.jp/material/files/group/1/161028_sigen.pdf

DataStaRt（葉山町きれいな資源ステーション協働プロジェクト）

https://www.stat.go.jp/dstart/case/21.html